

## 事業実績（研修）報告

### 1. 研修の概要

- (1) 目的 社会保障と貧困、福祉政策
- (2) 日時 10月27日（金）13時～17時  
10月28日（土）9時～16時
- (3) 場所 東京都渋谷区代々木 婦選会館
- (4) 参加者 鈴木規子



### 2. 研修内容と所感

.....

#### 市川房枝政治参画フォーラム2017 《セーフティネットは機能しているか》

##### ① 「居場所のない少女たちを支援して」

仁藤 夢乃氏（社団法人 Colabo 代表）

- 自身の中高時代の経験を踏まえて、女子中高生の支援～夜間巡回や声かけ、一時保護、児相や病院への同行、性暴力被害を経験した少女たちの自助グループ援助を通して見えるのは、この国の貧しさである。困っている少女たちから搾取をしない社会を訴えたい。

<所感>

- 依然として子どもたちの人権は守られていない。女子高校生を「JK」と名付け、買春をJKビジネスというマスコミに憤りを覚える。学校教育のなかで真っ当な性教育が未だに行われないのは大きな問題である。女子だけでなく男子にも必要な人権教育であることは当然だ。貧困の連鎖、暴力を受けて育った子どもたちへのサポート体制は極めて貧しい。愛知県では性暴力被害者のシェルターも民間のごく少数しかない。加害者への更生プログラムと併せて行政の主導が重要と考える。

##### ② 「年金制度の現状と課題」

西沢和彦氏（日本総研主任研究員）

- 現行年金制度は、今日の家族形態や就労形態に合致していない。被用者であっても企業に常用的雇用と認められなければ厚生年金加入者となれず、企業の裁量の余地が厚生年金から漏れる人を生み出す一因。パート女性の130万・106万の壁は厚生年金と国民年金とに制度が分立していることが根本的原因。
- マクロ経済スライドとは、物価が上昇しても物価ほどには年金額を引き上げないという仕組み。年金改革ではこれが強化されている。基礎年金のあり方を問直し最低保証機能を持たせる方向での制度体系の議論が不可欠である。

<所感>

- 年金制度に対する違和感と不信感が整理され、やはり抜本的改革が必要と痛感。国の対応はお為ごかしばかりである。学童保育指導員始め就労の事例を挙げての講義は具体的で、OECD34カ国の所得代替率は日本30位の指摘に頷く。
- 最低保証年金制度をもつカナダとスウェーデンでは、結局、国にも利益があると感じた。

.....

③ 「ケアラー支援法の必要性と実現に向けて」

堀越 栄子氏（日本女子大学教授）

- ・ケアラーとは「介護する人」の意。要介護者 600 万人の 7 割を家族が介護している。病気や障害のある家族のうち 18 歳以下の介護者は 35%を占め、年間 10 万人が介護のために離職し、介護者による殺人や心中が毎月 3 件以上起きている。
- ・老々介護だけでなく、若年者が学校にも行けず介護する、育児と介護のダブルケアなど介護者をめぐる状況は悪化の一途。支援する法整備は急務である。

④ 「まだ変わる！ 介護保険」

小竹 雅子氏（市民福祉情報オフィス・ハスカップ代表）

- ・2017 年の改正のポイントは、自立支援・重度化防止に向けた保険者機能の強化、医療と介護の連携強化、2 割負担者のうち高所得層の負担を 3 割に等々がある。将来負担の増を減らすためといいながら、自治体の現実は追いついているか？
- ・マクロ経済スライドとは、物価が上昇しても物価ほどには年金額を引き上げないという仕組み。年金改革ではこれが強化されている。基礎年金のあり方を問直し最低保証機能を持たせる方向での制度体系の議論が不可欠である。

<所感>

- ・ケアラーとは耳慣れない言葉だが、内容は旧来からある介護殺人や介護地獄に現れる事象を総括する法整備とわかる。国は介護のための離職による税収や労働力の損失になぜ目を向けないのか理解できない。
- ・介護保険制度を設計する優秀な官僚の周辺には、ケアラーなどいないのだろうか。

.. . . . .

	支出金額	備考
研修費	18,000 円	セミナー受講料として
資料購入費	1,600 円	① 難民高校生 800円 ② 女子高校生の裏社会～「関係性の貧困に生きる少女たち 800円
計	19,600 円	